

ESD 塾感想

参加者：社会学部阿部治ゼミナール 川島優大、関玲奈、佐藤安未加

文責：佐藤安未加

ESD 地域創生連携協定(ESD 研究所と長野県飯田市)に基づき、飯田市の南信濃学習交流センターにおいて飯田市内の中学校生徒と小学校児童を対象にして8月10日から12日までの3日間「遠山郷 ESD 塾自磨の時間」が実施された。

ESD 塾は初の開催であり、その目的や参加者との対応、また参加者の ESD の理解度の幅があり戸惑うこともあった。私たちは生徒児童や松本大学、麻布大学、東京農工大学の学生たちとコミュニケーションをとりつつ塾の運営に取り組んだ。

自磨の時間とは皆で新しいこと、楽しいことをやってみようというコンセプトのもと、自然体験活動や補習活動など、普段の授業では学べないことを様々な世代と共に学ぶものである。自然体験活動では参加者とバディを組み、川の生物探索を上流まで歩きながら進めた。川遊びが初体験という子供もおりそれぞれが貴重な体験となった。調理実習では飯田市上村の伝統食である「三角寿司」に挑戦、初めて見る三角寿司に目を丸くし楽しい時間を過ごした。

補習活動は子供の集中力の差を考慮しながら、遊びの時間も取り入れて夏休みの宿題などの課題をこなしていった。

自然豊かな環境の中で生徒児童や地元の方々、他大学の学生たちとの交流は我々にとっても大変貴重なものとなった。また塾の運営としては事前の顔合わせや地元の理解度を深めるコンテンツを盛り込むことにより、より充実した内容になると実感した。